

北 鯨 会 ニュースレター

No. 4



2014年11月
(名古屋工業大学同窓会北海道支部)

1 同窓生情報

氏名（敬称略）（卒業年・学科記号、現在の居住地）で、卒業年順に記載されています。

三田村好矩（F41、札幌）

「SUSHI は世界の食べ物」

今年古希を迎えました。この歳まで生きられたのも、幸運に恵まれたこと、先端医療のおかげと感謝しています。

今年6月にドイツのドレスデンに行きました。この町は約40年前に初めて行った外国の町です。会議が地元の工科大学であり、昼食は大学の学生食堂で好きなものを食べてよいことになりました。学生食堂は大きな新しい建物で、そのメニューの豊富さに驚きました。何にしようかと見て回ると握り寿司がありました。日本の大学食堂でも握り寿司をおいているところはきわめて少ないと思います。ドイツの、地方の、工科大学の食堂に寿司が並んでいたのには、驚くと同時にSHSHI は世界の食べ物と改めて思い知らされました。

ドレスデンのホテル近くのショッピングセンターに行きました。するとその一角になにやら回っているものが目に付きました。近づいてよく見ると、なんと回転すしでした（SUSHI CIRCLE）。小さな規模で、6, 7人が座れる程度のものでしたが、地元の人がたべておられたので、どんなものかと早速座りました。ドレスデンは内陸の町のため、巻物が主で、魚はサーモンと穴子くらいでした。値段は日本とほぼ同じで、やはり高い食べ物でした。回転すしがドイツの地方都市にまで広がっているのには驚きました。なお、鮭を握っているのは地元の人でした。

9月に米国のヒューストンに行きました。地元に住んでおられる日本人の方に昼食に日本食レストランに連れていってもらいました。有名な店だそうで、偶然、在ヒューストン日本国総領事の方にお目にかかりました。SUSHI も提供されており、日本人の方が握っておられるとのことでした。いろんな種類のSUSHI がありましたが、ヒューストンロールが目にとまりました。内容を聞きましたが英語の内容がよく理解できませんでした。地元の名前がついているためこれを注文しました。食べてみると非常に辛く、辛いものが苦手な私にとっては、拷問でした。良く聞いてみると、巻物の中にハラペーニョ（緑色唐辛子が）入っているとのことでした。ヒューストンはメキシコ系の住民が多く、地元の人に好まれる食べ物だとのことでした。鮭は世界の各地で地元合うよう工夫され、今やSUSHI に変化しているのを実感しました。

秋山 秀雄（Es43、札幌）

「名古屋工業大学に学んで(その2)」

（前回の続きです。）

私は小学生のころから電気というものに非常に興味を持った。小学校1、2年の頃クラスの友人が乾電池と豆電球を持っており、電池に線をつなぐと電球が光るのである。不思議でならず、友人からそれらを貸してもらって昼間押入れの中に入って豆電球を光らせ、何でこうなるのか…と。このことが私を電気の世界へと導いた最初の出来事である。その後鉱石ラジオを作ったり、学芸大学（現教育大）の学生さんの指導を受けてトランジスタラジオを製作したりと電気の世界へどんどんはまり込んでいった。当時旭川ではトランジスタが買えず、東京へ注文して入手したものであった。

したがって高校受験のときは早く電気の勉強がしたくて工業高校の電気科へ進もうかと思っていたが、先生の指導助言をいただいて普通科の高校へと進み更に名工大へと進んだのである。

名工大の専門授業では量子力学に大きな期待を寄せて望んだが思わぬ落とし穴が待っていた。指導される先生は勿論飛び切り優秀な先生でしたが、その先生には私のようなぼんくら学生が存在することが理解できなかつたらしく、細やかな説明はなく私は先生の授業に全くついていけないのである。もっともっと平易に教えていただきたかったのであるが先生には理解できないことが理解できなかつたのでしよう。私は期待の量子力学が皆目理解できず失望してしまつた。試験はしやにむに丸暗記で何とか及第の始末。

とても恥ずかしい次第であるが、原子核の周りを電子が同心円状の軌道を描いて飛び回っている図を多くの方はご存知と思うが、私はその絵を全くその通りのもとして信じてしまつたのである。しかも30才を過ぎるまで。あるとき量子力学の別の本を読んでいてそうではないことにやっと気がついたとき、背中を冷や汗が流れたものである。

仕事では量子力学などには全く及ぶことが無く人前で恥を晒すようなことはなかつたが、電子工学科を出た人間のこの体たらくさをとても恥ずかしいと思つた。でも、そのとき私はやっと大学で学ぶことの意義を見つけたのである。「大学は教えてもらうところではなく、必要な学問を自分で学んでいく力を与えてくれるところである。」と。

以後、大学時代の復習とばかり「量子力学」はもとより「素粒子論」「電磁気学」「物理数学」など随分と本を買つて勉強のし直しをした。昨今の参考書はとてもよく記述されていて、こんな本があつたときできていれば大学の授業はどんなに楽しかつたかと、とても残念である。でもこれら復習のお陰で仕事に必要な国家試験には余り苦勞もせずに対応できた。

間もなく古希を迎える昨今になつても、文学的な読書と物理的な読書の割合は時間数で比較すれば後者の方が多い。いつぞや喫茶店で物理数学の問題を解いていたら、隣の高校生のお姉さんが数学の試験勉強をしていたので、一寸水を向けると一瞬驚いた顔をしたが、私の本を覗いて仲間と思つたのか若干の会話を交わすことになつた。そうです。学問は年齢の壁を超えるのです。

(続きはまた次回に)

浅井 信和 (D45、更別)

愛知県にひとりで住んでいた母が病気とわかり、入院させるため昨年末から1か月間実家に滞在しました。

たまたま1月中旬に工業化学科45年卒の同窓会が名古屋市内で開かれ、久しぶりに多くの旧友と会うことができました。

昨年北海道へ旅行に来た時に帯広まで出向いて会つた友や、会うのは卒業以来という友まで、再会を祝いました。

その後母は亡くなり、住む人のいなくなつた家の片付けが大変でした。

この先にまだ空き家の処分もあるので頭が痛いです。

今では、「そろそろ自分たちの終活も始めなくてはね」が夫婦の話題になっています。

及川 善史 (M47、札幌)

一雨ごとに秋めいた気候に変化し、少しずつ冬の寒さと雪が想像されるようになり、少し憂鬱になるこの頃です。

お盆から長女が出産準備のため同居をし始め、嫁さんとの二回目の新婚？生活は、暫くお預けです。

結婚が遅かつたので、今回、初孫の誕生になります。同年代の集まりでは、孫は「可愛くてし

かたない」と話題になりますが、まだ実感がわきません。自分が最初に子供を育てた時の大変さが頭の片隅に残っているからなののでしょうか？今は、元気に生まれてくる事を祈るばかりです。来月からは、いよいよ前期高齢者の仲間入りです。娘が孫を連れて帰った後の来年3月、夫婦とも元気な今、久しぶりに海外旅行をしようと考えています。

八反田 哲司 (G53、江別)

釧路市のお生まれです。大学卒業後農薬関係の会社に勤務されておられました但退職され、今年、江別市(札幌市の隣町)にヘルパーステーション「スノーボード」を開業されました。現在、札幌、江別地区を対象に、行動援護(知的障害または精神障害により行動上著しい困難を有する人が行動する際に、危険を回避するために必要な援護を行うサービス)を行っておられます。「ごきそ」2014年1-2月号より転載)

大参 智 (Y54、札幌)

2011年12月にパナソニックを早期定年退職し、その後、小樽商科大学大学院(ビジネススクール MBA)で学び、本年3月に修了しました。

現在、同校の博士課程に進んでいます。

前職の電子部品営業技術の経験を活かし、産業財マーケティングの研究を行なっています。

簡単ですが、近況報告とさせていただきます。

今後ともよろしくお願い致します。

浅野 一郎 (C54、札幌)

岐阜県岐阜市出身 学生時代は半年自動車部であとはマーじゃん三昧でした。

昨年8月下旬に札幌に転勤し1年余りが過ぎました。

誰も知り合いがいなだらうとやってきましたが、同級生が2人とたくさんの同窓の方と知り合えてよかったです。

年々、高血圧や糖尿病の危険が高まる中、北海道の美味しい食べ物の誘惑と葛藤する日々です。

吉川 芳和 (C54、札幌)

岐阜県のご出身です。株式会社 NIPPO(旧日本舗道株式会社)札幌支店長として、昨年4月に転勤してこられました。北海道には昭和54年に、道北の士別市にあります自動車のテストコースで仕事をされたことがあるとのこと。従来単身赴任がほとんどだったそうですが、今回は初めて奥様と二人で住まわれておられるとのこと。「ごきそ」2014年1-2月号より転載)

山岡 千秋 (ZW3、岩見沢)

「山岡千秋のマスメディア放浪記」

昨年から今年にかけて、様々なメディアの取材や収録という貴重な経験をしました。こぶ志窯の有り様を様々に発信してきたもの(そうでないものもありますが・・・)を紹介していきたいと思います。

・2013年4月 NHKEテレ「俳句王国がゆく」

テレビの公開収録に当選し、砂川へ。会場でご当地俳句の投句募集があり、俳句をつくった事もない素人の僕が投稿した俳句がなんと入選！ 登壇し、山岡千秋テレビデビュー。とうとう本

格的に初めてしまい、現在俳句歴 1 年半。

「つらら落つ制服そっとおりたたむ」

- 2013 年 11 月 空知プレス（地方紙）
こぶ志窯「電動ロクロ体験」の様子を紹介。
- 2013 年 11 月 FM はまなす（岩見沢コミュニティ FM 局）
「今の自分」にゲスト出演。ラジオ収録初挑戦。
- 2013 年 12 月 BS 日テレ「北海道すたいる」 岩見沢編
台本にもとづいた収録初体験。もちろん台本通りにならず。
- 2013 年 12 月 北海道新聞 空知版
空知版に道新初登場。カラー写真入り。
- 2014 年 1 月 北海道新聞 夕刊
全道版に出世！
- 2014 年 7 月 「Cho-co-tto（ちょこっと）」掲載
コープさっぽろ月刊情報誌にこぶ志窯が表紙の器に掲載。「今月の表紙の器」に紹介記事。
- 2014 年 8 月 北海道新聞 日曜版 日曜 navi
「ほっかいどう知究人」に掲載。
偶然にも担当カメラマンと記事内の江別市セラミックアートセンターの学芸員が、岩見沢東高
校の同級生だった！
- 2014 年 9 月 チビスロウ 岩見沢
映画「ぶどうのなみだ」に向け発行。
ただし、こぶ志窯は一切映画に関与しておりません。
- 2014 年 11 月 北海道じゃらん 12 月号
11 月 20 日発行のじゃらん「ものづくり体験特集」に掲載予定。
- 2014 年 11 月 北海道ネット旅番組「All Good Hokkaido」
香港サイト Roadshow & YouTube チャンネルで放送される。
海外観光客向けの旅番組で紹介予定。
こぶ志窯がいよいよ海外進出。

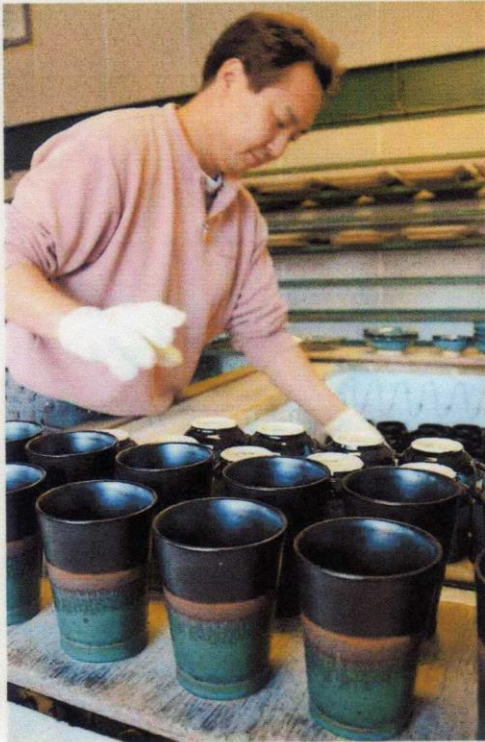
岩見沢の「こぶ志窯」

新たな色 妥協なき追求

【岩見沢】深いあい色の陶器で知られる岩見沢の窯元「こぶ志窯」が、新たな「色」への挑戦を続けている。3代目山岡千秋さん(46)はこの20年間、陶器の着色につかう釉薬を70種類以

上生み出してきた。一つの色を作るには数年かかることも。「父との二人三脚だからこそできる、こぶ志の強み」。今月、道産原料で作った釉薬を使った新作の量産を始めた。(坂本有香)

まれることもあるのが「面白さ」という。今月量産を始めた新作は、つやを抑えた深い緑と黒を掛け合わせた、落ち着いた風合い。中でも黒の釉薬は原料の8割が道産で、岩石の採取から完成までに6年を費やした。タンブラーは2835円、マグカップは2730円、市内5東13の工房と北広島市大曲町の家具店「スイートデコレーション大曲店」で販売している。



新作を初めて窯出しする山岡千秋さん。緑と黒の間の茶色は、釉薬の重なりから偶然生まれた

20年で釉薬70種開発

こぶ志窯は千秋さんの祖父で、札幌の国立工業試験場(当時)などで陶器の素材研究に携わった故三秋さんが1946年に立ち上げた。道内に現存する窯元の中で、最も古い歴史を持つ。現在は父懐さん(75)と2人で作陶している。千秋さんは、すでに「偶然からいい色が生まれることもあるのが面白さ」という。今月量産を始めた新作は、つやを抑えた深い緑と黒を掛け合わせた、落ち着いた風合い。中でも黒の釉薬は原料の8割が道産で、岩石の採取から完成までに6年を費やした。タンブラーは2835円、マグカップは2730円、市内5東13の工房と北広島市大曲町の家具店「スイートデコレーション大曲店」で販売している。問い合わせはこぶ志窯 0126・22・4303へ。

新作の緑・黒 タンブラーなど製作